拾源氏夢の草

作者 鐘貞

画 国貞

東京 文房

根源實紫（えんげんみむらさき）

一

上の巻

一

根源實紫

上巻

笠亭仙果作

梅蝶樓國貞画

泉喜太板

東京表町伊東

藤の作の一本故ふ武藏野は草造紙其が縁者と稱まべいづれも哀と人の愛て染色あるゝ紫も江戸名物の隨一と

乃りぬ扨も又其源乃光源氏の物語昔作る式部が傳記知まゝりやとゆゝかる幼子達をあり〻聞る彼女房の

一代話例の合巻に物せよと也猶同くハいろもと違ひ實錄のまゝ記あハ昔は賢女の行狀も知まゝ些〻教の端ともなるんと實ゝ

道理

あまやゝ既在下足利絹の八編にも書如く似て非ある物あるゝてゝ人の悅び者給ひゝ虛ハ面白く實ハ興淺し加之古書籍觀る力も

那紀聞取傍問こんぎんは紫式部の生年も沒年も其實名も未知まゝ唯彼人の日記二冊ふ客躰心術自然ふ

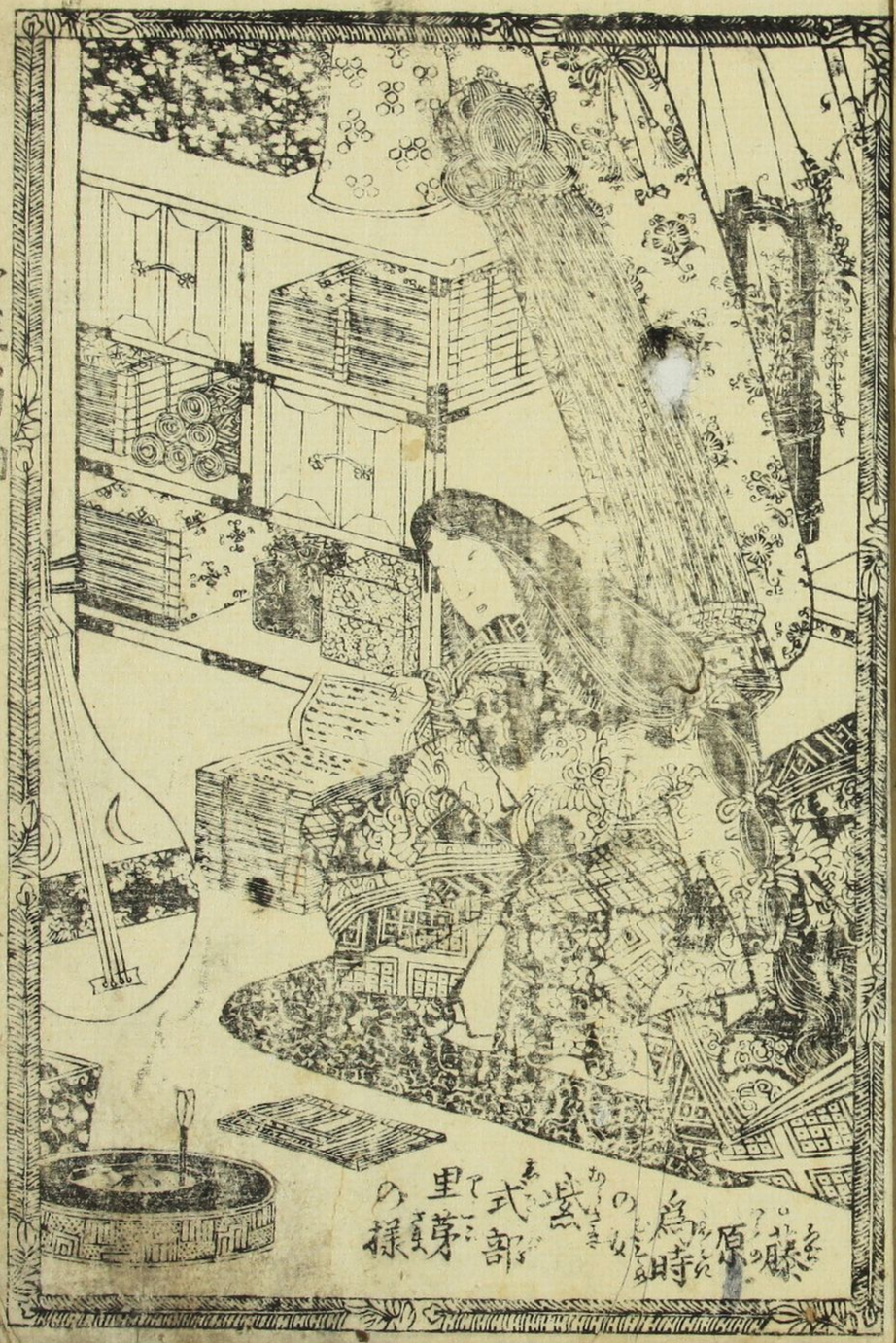
微細見ればいと方斯もや有つんと十ふ五ハ推量の憶度とのて
志くゝたまゝ外題に八實と喚ども實らぬき虚あれば摘それ
興ゝや

深ゝに繒様も枕とて隨へば穏和をたく珍しき
節ハ移れど是も亦藤に有縁の亀戸乃名華外に

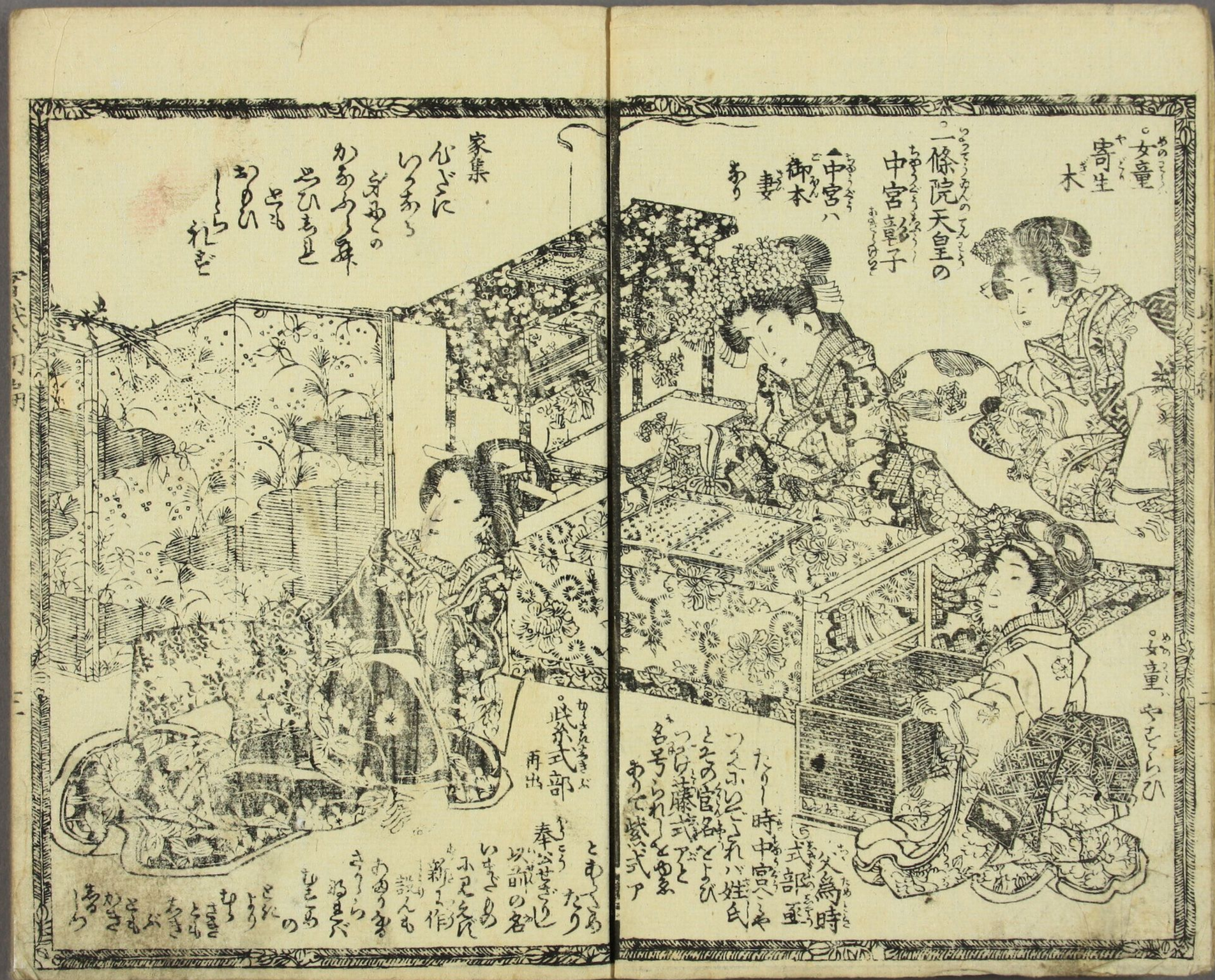
まれてのあきと力ふ先一袋二帙喜鶴堂に稿を贈てゝ嗚呼赤本玩
紫色に染改ゝ先師の餘光僕等ふまで及べる哉と追善心ふ卒都婆
の詩歌

家の集より釣出ゝ小町に縁の世喜寺ふ拙筆と起るめて

嘉永五年壬子閑春　東都浅草　笠亭仙果



○烏帽子狩衣緋の袴ハ踊ゝ外ふハ画にかゝるも幼兒の目と感めねバ月代剃さ攝政
白定外ゝの内侍命婦其趣意八年ゐるでも大事ゐとく車とも乘物ゝ泄ゝ


女童
寄生木
一條院天皇の
中宮彰子
中宮ハ御本妻あり
女童
やとらひ
久爲時
式部亟
たゝし時中宮に
つくふいとられバ姓氏
とその官名とよび
つゞけ藤式アと
名号られしとゆゑ
ありて紫式アと
家集
紫式部
再出
奉公せざる
以前の名
新作
説人も

女郎花
さかりの色を
見るからに
露のわきける
身こそしらるれ
式部
しら露は
わきても
置じ
女郎花
心からにや
色のそむらめ
御堂殿

○摂政太政大臣
藤原道長公
俗よ御堂関白と申れ
○右衛門権佐宣孝女
賢子
後大弐三位と呼ふ

實盛初編

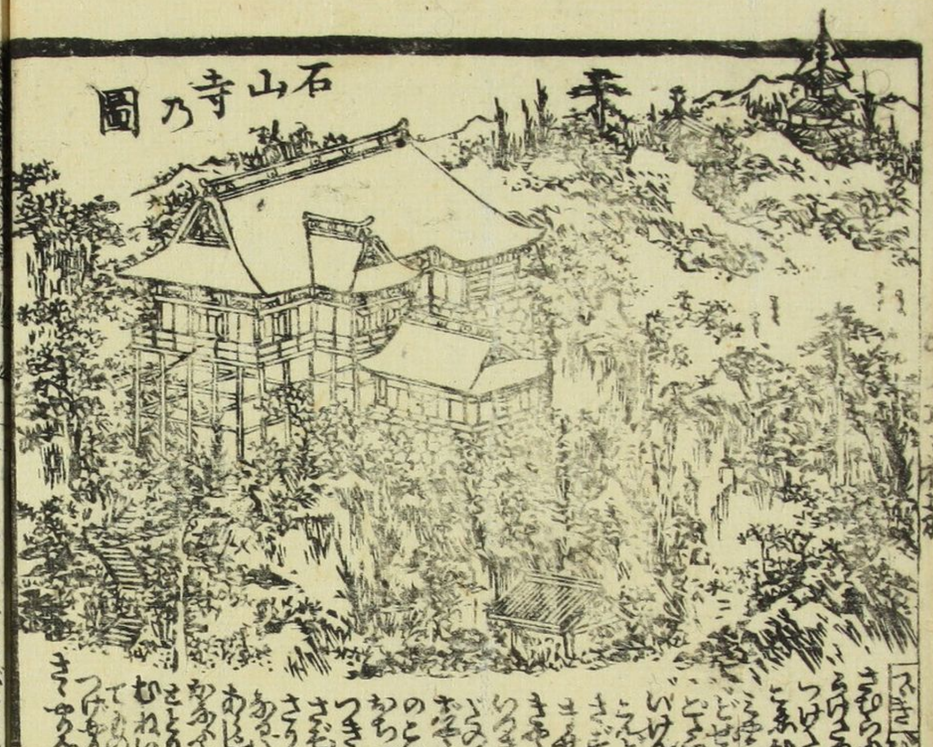
中

中
小

中

上

石山寺乃圖



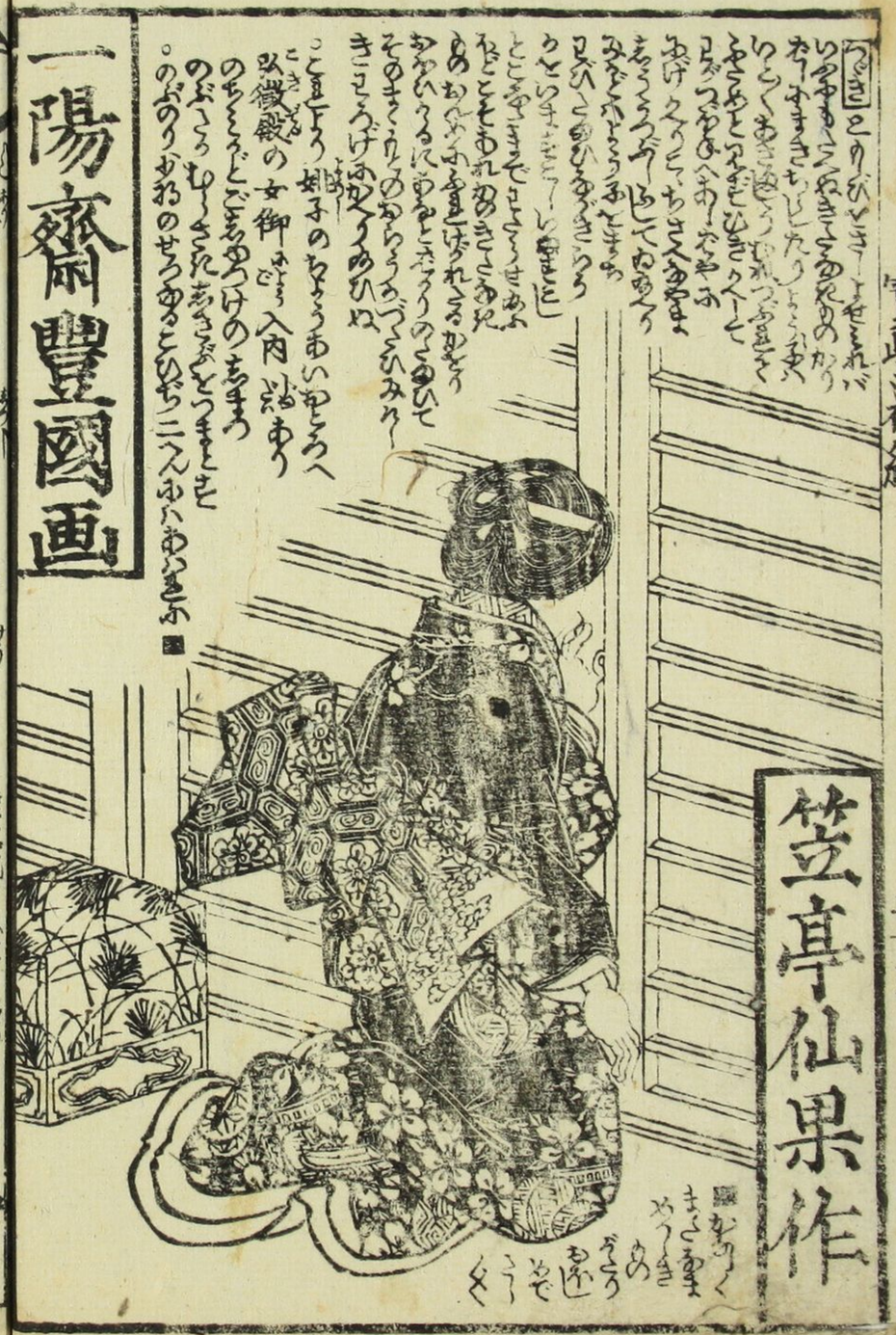
夢上者初編
十三
佞臣保輔
坂田の公時

使
宮

十七

一陽齋豐國画

笠亭仙果作



つき とりびとさーよせられば
いつやもらぬなきこゑのかり
おりすまきちしたりとうれ
いとくあさぬとうれつぶとて
ふとふとれもとひきくーと
ちゑつをもへあーだやふ
あげくうとてちさえあまま
えくうつぶーしてねあうー
みぐふとうあとまあ
ひへさあひぐきうろ
くとのまさとーしまと
とこあきでとくーせあふ
ねとこもれあきこあれ
あわんあふまとけれるかそう
あへいるにあとこうのくあひて
そのまくりのからうづくひみー
きこうげあひうめひね

ことよろ 妙子のちゑうあいやとろへ
弘徽殿の女御 入内 結あり
のちくーどごあつけのちまろ
のぶくろ ひーされあきぶとつまとと
。のぶのりかねのせろあることひち二へんふハあいき

笠亭・仙果 述

初編

在のまゝわて實事ゐとごも興おけれバ虚談と加へつゝ然バ
此処ゐハ實紫の名ハあり あぐゝ肝ノ女ハ文の話とまゝく祥
上ゝり下のあれ一度も顔と出さぐ景枝葉の為幹れかゝ豆
半石山寺に 杵より柄の太きに似されどつきこ趣向と餅ゐハ
始ゝ為時の物 つゝど團子十五夜月見れたぎき又三編の
語せんとそゝまでハ 水ゐ發ーー宣孝死して中宮に紫式部
跡方もあき虫ぶと 奉公の頃木貞操雲らぬ婦の亀鑑
ゐれと其人物ハ古書ゐ 舊記ゐ照して多くハ實と
出さその人々ハ行狀性質 録して御覧ゐ備へん
雑史記録家集ゐど人に問 元此編弘徽殿
聞とありけんかゝりえんとの推 初春の御年玉ゐもあるべく
量話其よゐと世継の物語此二編 やと我身ゐつく記して序と次
ゐも猶尽さど長ハ榮花の物語の ゐ

嘉永四年辛亥閏月

笠亭・仙果 述

華山院天皇
新千載集
弘徽殿女御
弘徽殿女御
低子霊魂

右衛門佐宣孝
紫式部
新拾遺集
雜中
里の名も
さてこそあふ
されハ山城乃
うちの
わたりを
いとゝ
さみしく

○左中辨ふじわらの惟成なりとぞ申すなり宮ゐの
女御ふつゝかれてかれよりきさきのおもけにいとふかくもられ給ひ
あるとき元そのをんなのもとへ
がちなるいろをかれのいろゆゑ
いとをかしくねゝまてもせぬとい
とまてもせぬとい
いろ〳〵ものゝ
のをんなどハ
さと
あせり

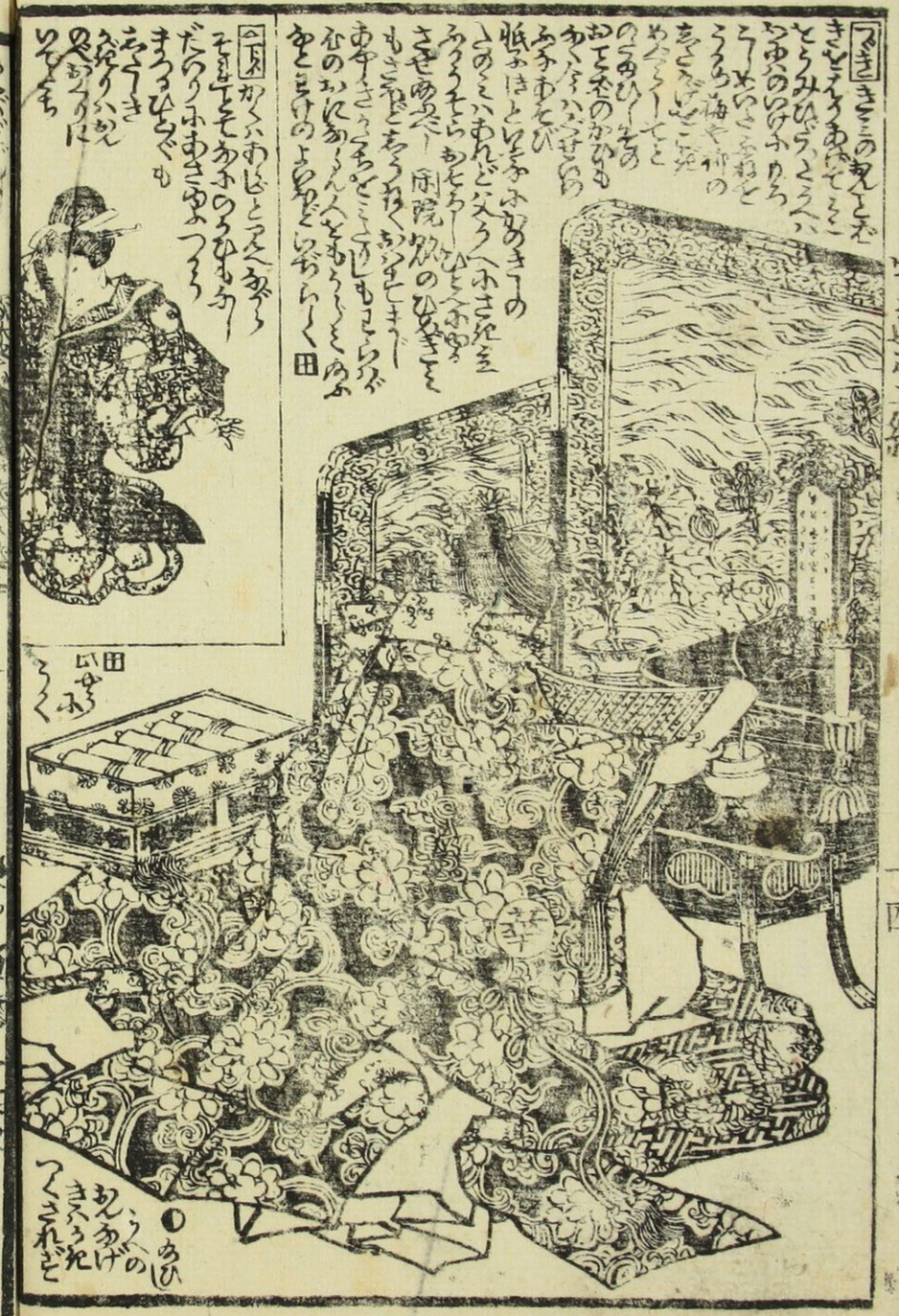
虎

賢女三編

豐國畫 仙果作

つき

大納言
為光卿



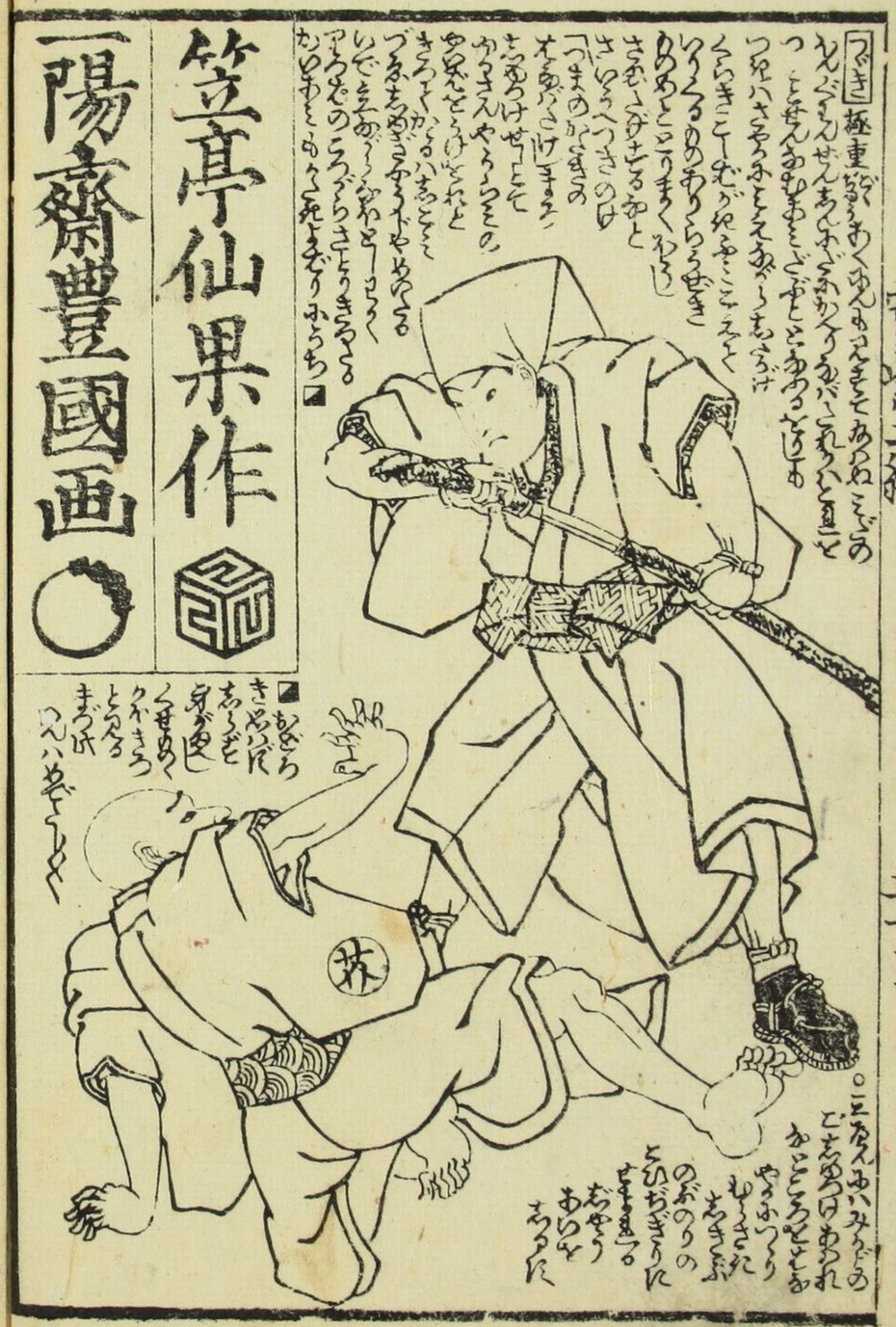
御堂前
寶吉

四五人うちよりて
きとのみのみこまれ
つゝ日ばくあるま
こまれらにも
きあぐゝ
うまれつゝそ
まゝ
あるぞそれくの
りんえんありて
かよをそむく
とけごろもひとさ
あるうちのさえば
なのーたゞひホせんとく
くちぐぶそのうつゝきに
うるゝどにかのむしの
ぶんよあうろにれゝ
つまーのまゝめふく
ひぐきーて女と
ころーよひひかゝ
さまゝぶかくいく
よびもたゝくひ
りゝりつまそう
ごとをかゝらん
もあかつゝ
ふゝとゝびきう
ありのまにむゝめ
とうりあらゝまゝばものく
あきれさもあま

☒そりゝかさゝてゝ
ゝまゝくぶろのある山でらゝ
かけいりてふゝこゝでをふゝと
しつくゝぶのむしゝゝ戒いと
うけかゝらとそうて高ゝゝ
のゝりくゝゝとき
ひぎりを作
こたのゝ

●ぞくゝゝゝう
の一ふゝとゝう
ゝゝいゝゝこと名を
あら
ゝゝて女のゝと
いとゝんゝろゝ
どゝゝひつ
だうゝゝん
つゝけり
。あゝゝけゝふゝけゝらゝ
ゝまりゝゝるゝ

☒ゝゝゝ



十返舍一九作
滑稽道中膝栗毛

柳水亭蔦六作
豐時田秋濃新雁
三篇大尾

柳水亭種清作
不思議塚小説櫻

柳水亭種清作
猛田姉妹新白石
同

同
風俗淺間ヶ嶽

關太郎鈴ヶ譚
五篇大尾

出版人 東都浅草区銀座四丁目三番地 山中喜太郎

曲亭馬琴作
新編金瓶梅全輯
十 第大尾

為永春水作
黄金水大盡盃

同
女郎花五色石臺
十 篇大尾

柳亭種彦作
琴聲義人録

同
小女郎蜘蛛亭環
三 篇大尾

笠亭仙果作
根源實紫

柳下亭種員作
兒雷也豪傑譚

柳煙亭種久作
假名反古
一休草紙

八冊之内

林恵津